

1 日 時：平成 29 年 10 月 28 日（土）13 時 30 分～15 時 00 分

2 会 場：三国丘高等学校 校長室

3 出席者：[委員] 中尾俊治委員、井上博史委員、今西邦夫委員、中村誠委員、西端律子委員
[学校側] 山口智子校長、高崎克司教頭、小笠原達治事務部長、
中山潔首席、田中和代首席、恩智理指導教諭、北出眞理教諭、吉田まちの教諭、
吉田憲司教諭、崎谷恵美教諭、金田朝樹教諭

4 次第

1. 校長挨拶

2. 出席者紹介

3. 議事 協議要旨

(1)平成 29 年度学校経営計画の進捗状況について（報告）

(委員) スマホの校内使用について、授業でもスマホを使うことはあるのか？

(学校) 基本的に授業中に使うことはありません。例外として課題研究で使うことはある。掲示物をメモせずスマホで撮影したり、ラインなどの SNS に時間がとられていたりするのが気にかかる。学校自己診断アンケートでもかなりの時間を勉強以外でのスマホの利用に使っていることが確認されている。生徒間で話し合っ「〇時以降はスマホ禁止にする」などの規則を作ってくれるのが一番良い改善策であるが具体化できていない。

(委員) 現在の中 3 生から大学入試センター試験が抜本的に変わる。特に英語は 4 技能型となり民間の試験を活用すると聞いている。中 3 生とその保護者は各校の英語についての取り組みに注目している。

(学校) 本校は全学年で 4 技能統合型授業を実施しています。日本の高校生はライティングやスピーキングなど自分の意見を発表することに慣れておらず、苦手とするところではあるが、本校では対策は十分にできている。2 学期中間テストでは、200 語のエッセイを書かしている。生徒たちも随分慣れて 200 語程度なら軽く書く。「間違いを恐れずとりあえず思い切って書いてみる」という指導をしている。

スピーキングでは、自分の意見を言う型を教えて、それを使って自分の意見を言う練習をしている。今後いろんなことに挑戦していくなかで 4 技能能力を育成していきたい。

(委員) 大学入試を見据えると、英語の授業は中 3 生が高校を選ぶ際の一つの特色になるので頑張りたい。

(2) 各進捗状況について（報告）

(ア) CS 関係

(委員) 来年度の課題研究は円滑に行えるのでしょうか？

(学校) CS I は人数が多くても対応できるが、CS II は少人数のグループで行うなかで、教員数等を考慮すると、課題研究の質が落ちてしまうのではないかと懸念がある。いま検討中です。課題研究指導の経験者を増やすために、課題研究の研修に参加してもらったり、課題研究の指導力向上のための教材を取り入れたりして、教員全員が課題研究を指導できる体制をとっていく。SSH・SGH とともに海外研修が盛んである。海外研修を一過性のものでなく、課題研究との関連性をもたせて実施することで密度の濃い課題研究にしていきたい。また、ディベート大会や数学コンテストといった大会に参加して、目標をもった課題研究にしていきたい。

(イ) 進路関係

(委員) 進路交流会の効果は？

(学校) 進路交流会をすることで進路資料室に相談に来ることが増加。進路希望調査では京大志望者が増加。受験へのモチベーションをあげることに繋がっている。

(委員) 進路交流会の内容は成績をどう上げるのかに重きを置いたのか？

(学校) 夏にクラブを引退して必死に勉強しているがなかなか数字で見えて成果が表れてこないことから、弱気になっている生徒が多い。この時期の勉強法や合格までの日々の過ごし方など受験を目の前にしてどう過ごせばよいのかを中心にアドバイスをいただいた。

(委員) 不安になって志望校を下げようか迷っている生徒へのフォローも考えてほしい。「やっぱりこの大学に行きたい」と思えるような志望校への憧れを取り戻すというテーマの進路交流会も実施してほしい。各学年・各タイミングでどんな交流会をすればよいのか選択肢を増やしてほしい。

(委員) 三国丘の卒業生は財産だと思うので、人材をうまく活用してほしい。

(ウ) 英語 4 技能統合型授業

(委員) 200 語以上のエッセイはどれくらいの時間で書くのでしょうか。

(学校) 30 分ぐらい与えます。1 年時に書き方を教えています。

(委員) 生徒の感想欄に「速いスピードで話される英語に慣れた。」とあるが、具体的にどういったことをしているのでしょうか？

(学校) 授業の冒頭でリスニングの問題を解く際に、ハイスピードのものを流し、デクテーションしています。センター試験の問題に比べたらかなり速いものです。

(委員) 熱心で充実した授業が展開されている。

(3) 各学年の状況について (報告)

(ア) 3 年

(委員) 学年連絡会は何人ぐらい来られたのでしょうか。

(学校) 100 名ぐらいです。去年この時期に 3 年の学年連絡会はなかった。保護者からの要望もあり、今年からこの時期も実施した。保護者も生徒と同様に不安になってくる時期に実施できてよかった。

(委員) 学校の指導に関してご理解いただき、苦しい時期を一緒に乗り越えていくことを伝えられている。また、担任の共通理解も生まれて指導にあたる。とても良い取り組みである。

(イ) 2 年

(委員) 大学の先生が来校して出前授業をすることはあるのか？

(学校) 三丘セミナーのときにいろんな大学の先生に講義していただいています。

(ウ) 1 年

(委員) 進路選択において、自分の行ける大学に行くのが一番良くない。刺激を与えて、生徒が行きたい大学を志望できるように指導をしておられて良いと思う。

(4) スーパーグローバルハイスクール (SGH) の取り組みについて (報告)

特に質疑なし

(5) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 今年度の取り組みについて (報告)

(学校) 実践科学実験は、より生徒が頭を使う実験にしたいというコンセプトで作り変えた。

(委員) 実践科学実験に関して、授業の内容の応用も利くし復習にもなるので、非常にいいことだと思う。

(6)平成 30 年度使用教科書選定について（報告）

特に質疑なし

(7)その他

（委員） 浪人生激励会は素晴らしい。

（委員） 探究活動の授業では、教員のもつ生徒数が増え指導が追い付かない現状がある。大学では支援システムなどを活用して、そのような問題を解消している。

（委員） 学校の取り組みを保護者に伝える機会・発信する機会がもっとあればよい。学校説明会では、親の不安部分を説明してくれるとさらにわかりやすい。

（委員） モチベーションを上げる取り組みだけでなく、自分のやりたいことを早く気付かせることも並行してやってほしい。

（委員） 各学年で保護者を巻き込んで丁寧に教育活動が展開されている。ひきつづき頑張ってください。